

「七夕磯」は会瀬漁港の堤防先に引き潮の時にだけ現れ、年に一度の七夕にまつわるロマンチックな伝説があります。

伝説では、「昔、7月のある夜、会瀬の浜が昼間のよう  
に明るくなり、若い男女が七色の雲に乗って、沖合の2つの岩に舞い降りた。すると、それまで静かだった波が、この岩を中心にぶつかり合って飛び散り、それが白い雲となって美しく輝いていた。やがて、その雲を透かして、岩の上で仲睦まじくしている男女の姿が見えてきたと。その不思議な出来事に村人は驚き、『今夜は七夕なので彦星と織姫星が舞い降りて、逢う瀬を楽しんだのであろう』と話したのであった」と伝えられています。

また、七夕磯がある「会瀬」の地名は、ひたちのくに常陸国ふどき風土記くじぐんの久慈郡の条の末尾に「昔この地は『遇賀』と名付けられ、それは倭武天皇が皇后とお会いになった場所やまとたけるのすめらみことに由来する」と言われています。このように「出合い」にまつわる言い伝えがあることから、会瀬町には、「七夕磯」伝説が生まれたものと考えられます。



満潮時、七夕磯は海面下に隠れています。潮の満ち引きや波の高さ等の条件が合った時にしか全体を見ることができません。



会瀬漁港のすぐそばを JR 常磐線が通っているため、電車内から会瀬の海を見渡すことができます。また、漁港から少し北上したところに位置する JR 日立駅からも太平洋を望むことができます。



<基本情報>

【所在地】 日立市会瀬町地内（会瀬漁港付近）

【出典等】

- ・柴田勇一郎『ひたち地方の伝説—郷愁の伝承誌—』、日立市民文化事業団、1977
- ・柴田勇一郎『日立の伝説』、筑波書林、1985
- ・伊藤正夫・大越斉『ひたちの民話』、ART 楽がき、2009
- ・日立市郷土博物館『常陸国風土記にみる日立』、氷川書房、2013